

スリップによる死亡事故の特徴 (平成29年度から過去5年 死亡事故63件68人)

【まとめ】

- 11～12月は降雪(降雨)後の数日間にわたり、**湿潤と凍結を繰り返したり、乾燥路面の中に部分凍結が発生**するため、運転手は**急な路面変化**に対応できず、スリップ事故を発生させます。
- 発生場所はカーブより、**平坦な直線道路**が多く、**正面衝突が約6割**を占め、うち**普通車が大型車や中型車**と衝突する事故が**約7割**を占めています。
- 事故直前の速度が速い場合は死亡事故になるケースが多く、**事故直前の速度が40km/hを越えると死亡事故の割合が高くなります。**

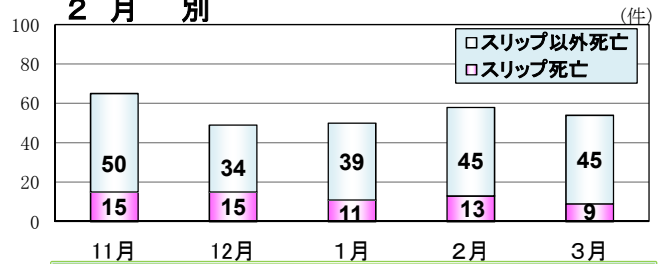
1 年別推移

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	合計	
全人身事故件数(A)	5,847	4,919	5,094	5,230	4,651	25,741	
うち死亡事故件数(B)	65	49	50	58	54	276	
うちスリップ事故	人身事故件数(a)	1,051	811	949	1,062	909	4,782
	a/A	18.0%	16.5%	18.6%	20.3%	19.5%	18.6%
	死亡事故件数(b)	8	13	8	23	11	63
	b/B	12.3%	26.5%	16.0%	39.7%	20.4%	22.8%
	b/a	0.8%	1.6%	0.8%	2.2%	1.2%	1.3%
死者数	8	15	10	24	11	68	

○ 死亡事故は各年度によりバラツキが多い

各年度を比較すると、最多は平成28年度(23件)で、最少は平成25年度と平成27年度(8件)であった。最多年度と最少年度では約2.9倍となっている。

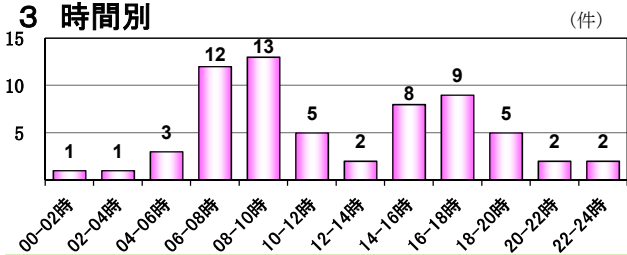
2 月別



○ スリップ事故の47.6%(30件)は、11月と12月に発生

11月・12月の最低・最高気温は、融水が凍結する0度を挟み変化、夜間はブラックアイスパーン又は凍結、昼間は凍結路面に融水膜が発生する危険な路面状態です。特に降雪(降雨)後の数日間は、湿潤と凍結を繰り返し、部分凍結を発生させるため注意が必要です。

3 時間別



○ 6時から10時までの時間帯で発生が特に多い

内訳では、8～10時の時間帯が13件で最も多く、次いで6～8時の時間帯が12件となっている。午前は6～10時、午後は14～18時がピークとなる。

4 道路形態別

凡例	交差点	直線	カーブ
死亡	6件 9.5%	33件 52.4%	24件 38.1%

○ 死亡事故は直線(33件,52.4%)が多い

発生場所はカーブより、**直線道路**で多く発生している。直線では、カーブに比べ速度の抑制が効かず、**事故直前の速度が速い**ことから、衝突時に体に与える影響が大きいためと考えられる。

5 事故類型と第1当事車両別

	人対車両	自転車対車両	正面衝突	追突	出会い頭	車両単独	その他	合計
発生件数	1		36	1		22	3	63

第2当事車両	正面衝突(件数)	第1当事車両		合計
		大型車両	普通車両	
大型車両			20	20
中型車両	1		4	5
普通車両			10	10
大特その他	1			1
合計	2		34	36

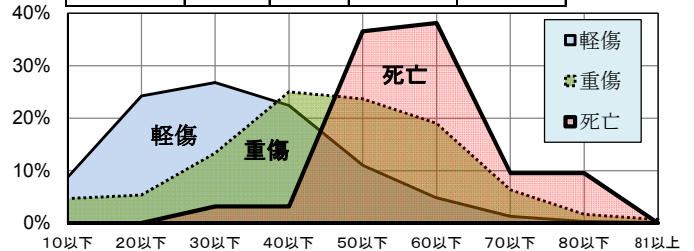
○ 事故類型は、正面衝突が36件でスリップが起因する死亡事故の57.1%を占めている。

○正面衝突の第1当事者の94.4%(34件)は普通車で最も多く、第2当事者の69.4%(25件)は大型車・中型車となっている。

「普通車」の運転手は、「大型車・中型車」とすれ違う場合、対向車両に「恐怖心」(心理的圧迫)等を抱き、不用意な操作(ハンドル・ブレーキ操作)が要因となっていると考えられる。※「8恐怖心、驚愕によるスリップ事故のメカニズム」参照

6 事故前の第1当事者の速度と事故内容

	死亡	重傷	軽傷	合計
発生件数	63	300	4,419	4,782



○ 死亡事故は全件数の1.3%となっている。

発生件数は、「軽傷」が4,419件(92.4%)、「重傷」が300件(6.3%)、「死亡」が63件(1.3%)となっている。

○死亡事故になるかどうかは、**事故直前の速度による**。事故直前の速度が速くなるにつれて、人身損傷程度が大きくなり、事故直前の速度が**40km/hを超えると死亡事故の割合が高くなる**。

7 スリップによる死亡事故の発生危険箇所

平坦な直線 22件22人



直線 33件34人

死亡事故の最も多い道路形状は、平坦な直線道路で、うち「普通車×大型・中型車」の正面衝突が多くなっている。

橋梁上の一部凍結 2件2人



橋梁の手前は乾燥しているが、橋梁上のみ凍結。

トンネル内の一部凍結 3件4人



トンネルの手前は乾燥しているが、トンネル内の出入口付近が一部凍結。

樹林による日陰のため、一部凍結



樹林による日陰のため、一部凍結路面が発生。同所の手前は乾燥路面であるが、同所付近の数十メートルにわたり凍結。

カーブ 24件27人

山間部の凍結



山間部のカーブでの全面凍結。

8 恐怖心、驚愕によるスリップ事故のメカニズム

スリップによる死亡事故は直線道路で最も多く発生し、「普通車×大型・中型車」の正面衝突が最も多くなっており、対向車線にはみ出しているのは、ほとんどが「普通車」です。

これは、大型車とすれ違う際に、普通車の運転手は「恐怖心(心理的な圧迫感)」から、不用意なハンドル・ブレーキ操作によりスリップを発生させる等、車両の制御ができなくなり、対向車にはみ出した結果、正面衝突となっていると思われます。

